

# 都市魅力づくり対策特別委員会 報告書（概要版）

調査項目「新たな観光資源の創出について」（平成28年6月）

本委員会は、「新たな観光資源の創出について」及び「スポーツの振興について」を調査項目とし、政策提言につなげることを目的に平成27年6月26日に設置された。

本委員会の調査期限は、平成29年6月30日までであるが、前半の1年間は「新たな観光資源の創出について」を中心に調査研究を行うこととし、この度、提言等を取りまとめたので、その報告を行う。

## 1 委員会活動の経緯について

	委員会開催等年月日	活動概要
(1)	平成27年 9月 4日	理事者から本市の観光概況・観光動向・観光施策等の聴取及び質疑応答並びに委員会運営に係る協議
(2)	平成27年11月 4日	市内視察の実施・講演会の開催に係る協議
(3)	平成27年11月 6日	市内視察（頼山陽文徳殿、安佐動物公園、元安川等※船上視察）
(4)	平成27年11月19日	有識者からの意見聴取（講演会） ① 株式会社JTB総合研究所 主席研究員 中根 裕 氏 ② 株式会社リクルートライフスタイル ジャらんリサーチセンター 中四国チームリーダー エリアプロデューサー 舘 博哉 氏
(5)	平成27年11月25日	有識者からの意見聴取（講演会） ① 株式会社JTB中国四国 中国西営業部 プロデューサー（交流事業・MICE担当）中村 忠司 氏 ② 日本政府観光局 海外プロモーション部長 亀山 秀一 氏
(6)	平成27年12月22日	政策提言に向けた意見交換
(7)	平成28年 1月29日	政策提言の取りまとめの方向性に係る協議
(8)	平成28年 2月 1日 ～3日	県外行政視察 ① 北九州市 （調査項目）MICE戦略、観光資源の発掘 ② 一般社団法人宮古島観光協会 （調査項目）地域特性をいかした観光スタイルの創出、情報発信 ③ 沖縄県 （調査項目）観光客受入体制の充実・強化、観光人材の育成 ④ 公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー （調査項目）インバウンドの推進、MICEの誘致・支援
(9)	平成28年 5月24日	報告書素案等に係る協議

## 2 「新たな観光資源の創出」に向けた提言について

国においては、2003年に「訪日旅行者促進事業（ビジット・ジャパン事業）」を開始し、2020年に2,000万人の訪日外国人旅行者数（インバウンド）の実現を目標に掲げ、積極的な誘致活動を展開した結果、2015年には1,973万人余と過去最高を更新した。訪日外国人旅行者数2,000万人の目標達成が視野に入ってきたことを踏まえ、本年3月には2020年の目標を2,000万人から4,000万人に、2030年には6,000万人に引き上げる方針が打ち出されたところである。

このように日本を訪れる外国人観光客数が過去最多を更新する中、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、今後、地方にどれだけ多くの外国人観光客を呼び込めるかが大きな課題となっている。

もとより、経済波及効果の大きい観光は、少子高齢化に伴う人口減少社会を迎える中、国内外からの交流人口の拡大により地域の活性化、雇用の創出に大きな効果が期待できる。

また、最近の旅行の傾向は、物見遊山から滞在型・体験型へ、団体旅行から個人旅行への移行が進み、観光ニーズはますます多様化している。

本市においても、国内外の都市間競争が激化する中、このような傾向を踏まえつつ、この機を大きなチャンスと捉え、観光施策の一層の充実を図っていくべきである。

さらに、本年5月27日に、オバマ大統領が現職の米国大統領として初めて広島を訪問され、原爆死没者慰霊碑に献花された歴史的事実により、全世界から被爆都市「ヒロシマ」への注目が一層高まっている。

これらのことを踏まえ、本委員会では、次の5点にまとめて提言する。

## 【提言 1】 被爆都市ヒロシマとダークツーリズム

世界的に知名度がある平和記念資料館や原爆ドームには年間140万人以上の方が訪れる。今後とも、被爆都市ヒロシマとしては更に多くの方に来広していただき被爆体験を伝承していく責務がある。そのためには、現存する被爆建物を積極的に活用するとともに教育委員会と連携した教育旅行などの推進を図っていく必要がある。

具体的には、被服支廠、頼山陽文徳殿を始めとした被爆建物と被爆証言を組み合わせることや夜の原爆ドームの活用などにより、よりインパクトと集客力のある、体験・滞在型のツアーが可能となる。こうした平和施策と観光施策とを連携させるとともにダークツーリズムの観点も取り入れ、より効果的な施策を実施されたい。

### 【具体的取組例】

- ・被爆建物の保存活用、特に被服支廠の活用
- ・被爆証言と被爆建物・碑巡りを組み合わせた取組の実施
- ・夜の原爆ドームの更なる活用手法の検討
- ・ユニタールとの連携による平和プログラムの構築
- ・教育旅行の推進とコーディネータ機能の充実
- ・負の遺産である原爆ドームの全世界に向けた情報発信の検討
- ・平和記念公園・原爆ドームの観光客に対する休憩施設等の検討

### ※ダークツーリズム

戦争や災害など負の足跡をたどり、歴史的な悲劇を自分の目で知り、そこで亡くなった人々を悼み、人類の悲しみを継承していく旅。(平成27年11月25日開催の講演会より)

## 【提言2】 広島ブランドの充実とニューツーリズムの創出

平和都市広島はゆるぎない世界ブランドであるが、観光都市としての新たな広島ブランドとして、まちの魅力を磨いて発信していく必要がある。

都市観光の魅力は、町や界限・路地を回遊する楽しみや、海や川など自然に触れる楽しみ、買物、食、伝統・文化、スキーや海水浴などのスポーツ、夜景を含めたイブニングライフの楽しみにある。

広島にはこうした豊富な資源があり、これら既存の資源を加工することや、見せ方、伝え方を変えることなどにより、広島ブランドに磨きをかけることが可能となる。

さらに、旅の目的のスタイルが団体から個人へ、物見遊山的な観光旅行から、体験・交流型、テーマ性の強い旅へと変化している中、こうしたニーズも踏まえつつ、例えば、中央卸売市場を築地のように観光化する、比治山の活用、有名建築物巡り、電車を活用した観光プログラムの開発など、広島ブランドの充実とニューツーリズムの創出に、関係者と連携して積極的に取り組まれない。

### 【具体的取組例】

- ・フラワーフェスティバルのナイトパレード化
- ・「ゆかたできん祭」をまち全体で「浴衣」をアピールする全国的なイベントとなるよう取組の拡充
- ・遊覧船の常時運航等広島城の堀の活用
- ・観光資源としての神楽の更なる活用
- ・キッザニアの誘致
- ・サッカースタジアムの設置
- ・夜市、朝市の開催
- ・湯来町における空き家（古民家）の改修利用による民泊、農家レストラン、オートキャンプ、空き農園を活用した市民農園の拡大
- ・東照宮の千本鳥居の整備（ライトアップ）
- ・比治山の活用（現代美術館レストランの整備、歴代ノーベル平和賞受賞者パネルの展示）
- ・プラネタリウムの活用（世界遺産のある都市の星空巡り）
- ・中央卸売市場関連棟の活用（築地のように観光資源化）
- ・アリスガーデンをかつての姿（屋台集積場）に復元
- ・頼山陽文徳殿の活用
- ・分野ごとの有名建築物巡りのコース設定
- ・川の活用（六つの川にストーリーを付けた川巡り、川のそばで行っている祭りに合わせた川巡りの実施等）
- ・古い電車や最新のLRTなど多種多様な電車の観光資源としての活用
- ・市周辺の様々な魅力の発掘と活用
- ・夜型観光に対応した商店街の取組（営業時間の延長）
- ・広島にあるオンリーワン企業の活用
- ・マーケットインの考え方を取り入れた上での観光戦略の構築（検討手法）
- ・被爆証言と被爆建物・碑巡りを組み合わせた取組の実施〔再掲〕
- ・教育旅行の推進とコーディネータ機能の充実〔再掲〕

### [提言3] インバウンド新時代に向けた戦略的取組と受入環境整備の充実

日本国内はもとより、世界各国から訪れる旅行者がストレスなく、安心かつ快適に観光を楽しめるよう、旅行者の移動や滞在を支える基盤をソフト・ハード両面から拡充していくことが重要である。

特に、前述したように、外国人観光客の来広は、被爆の実相を体感していただくだけでなく、地域の活性化にも大きな効果が期待できる。来広外国人旅行者が平成27年には初めて100万人を超え、今後も大きく増加することを見据えながら受入環境の整備を進める必要がある。

このため、観光プログラムの開発と充実はもちろんのこと、観光情報や案内標識の多言語化、Wi-Fi環境の整備、滞在スタイルの多様化への対応（民泊等）、市民のおもてなし機運の醸成等受入環境の更なる充実や、海外への魅力発信の強化に向けた取組を、外国人の視点も意識しながら積極的かつ戦略的に推進されたい。

#### [具体的取組例]

- ・施設の有効活用を図るための交通網等インフラの整備
- ・空港からのアクセス改善、観光施設トイレの改善等
- ・案内表示の国際表示と英語表記の徹底
- ・Wi-Fi範囲の拡大
- ・中山間地等での民泊の活用
- ・「おもてなし」の普及啓発と実践
- ・市民ボランティアや市職員が英語による簡単なあいさつや案内ができるよう資質の向上
- ・飲食店での対応など外国からの来訪者に対する利便性の向上
- ・ハラル対応等多様な宗教・宗派に対する受入環境の整備
- ・公的施設における軽量車椅子・バギーカーの導入
- ・視覚障害者のための点字道路の連続性、施設入口までの完結性の確保
- ・歩道の安全性の確保
- ・女性の一人旅でも安心して観光できる環境の整備
- ・電停の安全確保
- ・英語版HPリソースの充実（動画）（外国人による外国版観光ホームページの作成、動画の充実）
- ・ユニタールの人材活用
- ・被爆証言と被爆建物・碑巡りを組み合わせた取組の実施 [再掲]

## 【提言4】 広域観光プロモーションの推進と情報発信の強化

旅行者の広域観光ニーズへの対応、域内における旅行者の長期滞在・周遊性の向上を進めていくためには、観光地単独の取組にとどまらず、広域にまたがる観光地同士が連携・協力を図ることが重要である。

このため、「200万人広島都市圏構想」に基づく連携を始め、広島県との協働等により、ストーリー性のある広域観光プロモーションを展開するとともに、情報発信の強化に取り組まれない。

### 【具体的取組例】

- ・「200万人広島都市圏構想」の連携市町との観光分野での連携
- ・国家戦略特区に指定された広島県との協働
- ・繁華街の情報発信、PR
- ・広島県域の観光情報の発信
- ・人を呼び込むための効果的なPR手法の実行（東京、世界への発信）
- ・新たに導入した観光施策の全市民への浸透のための取組
- ・英語版HPリソースの充実（動画）（外国人による外国版観光ホームページの作成、動画の充実）〔再掲〕

## 【提言5】 グローバルMICE強化都市としての展開

MICEは会議開催、宿泊、飲食、観光等の経済・消費活動の裾野が広く、また滞在期間が比較的長いと言われており、一般的な観光客以上に周辺地域への経済効果を生み出すことが期待されている。

本市は平成27年にグローバルMICE強化都市に選定されており、受皿となる会議場等のインフラ整備の具体的な検討を進めるとともに、他団体等と連携しながら、広島の強みや地域資源を活用したユニークベニューの導入等の戦略的な誘致活動に取り組まれない。

### 【具体的取組例】

- ・受皿・インフラ整備の必要性に関する具体的な調査分析
- ・MICEのユニークベニューの導入
- ・平和関連会議・学会は広島で必ず行われるような取組の実施（減免措置など）
- ・学会誘致に向けての他団体等との連携
- ・国際機関を誘致し、集積を図る取組の推進
- ・空港からのアクセス改善、観光施設トイレの改善等〔再掲〕
- ・案内表示の国際表示と英語表記の徹底〔再掲〕
- ・Wi-Fi範囲の拡大〔再掲〕
- ・公的施設における軽量車椅子・バギーカーの導入〔再掲〕
- ・英語版HPリソースの充実（動画）（外国人による外国版観光ホームページの作成、動画の充実）〔再掲〕